

# I - 3 - 5 基盤整備・農地集積の推進

- 作業効率化等を図るため、小区画不整形で分散している茶園の**区画整理**や**茶園への進入道の整備**を支援。
- 将来の地域農業の在り方や目指すべき将来の農地利用の姿を明確化した**目標地図**を含めた「**地域計画**」の令和7年3月末までの策定に向けて、農業者等による話し合いを実施。

## 【優良事例（静岡県御前崎市上朝比奈地区）】

- ・ 小区画で段差があるなど機械化ができず荒廃農地化が進んでいた茶畑を平坦で大区画な茶園に基盤整備。
- ・ 担い手農家に集約され輸出向け茶栽培を開始。

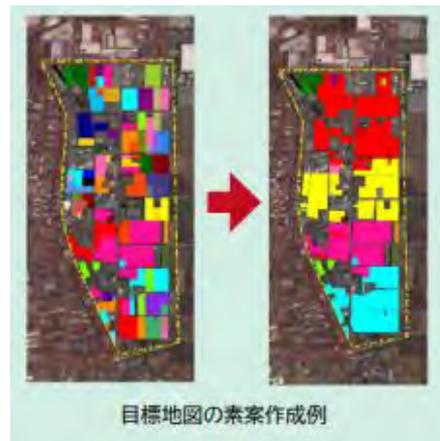
整備前：小区画で営農しにくいほ場



資料：静岡県HPから引用

## 【地域計画の策定】

- ・ 地域計画では、「**目標地図**」（10年後誰がどの農地を耕作するのか、耕作できない農地はどこかを地図に示したもの）を作成。
- ・ 策定した地域計画は市町村のHP等で公表。



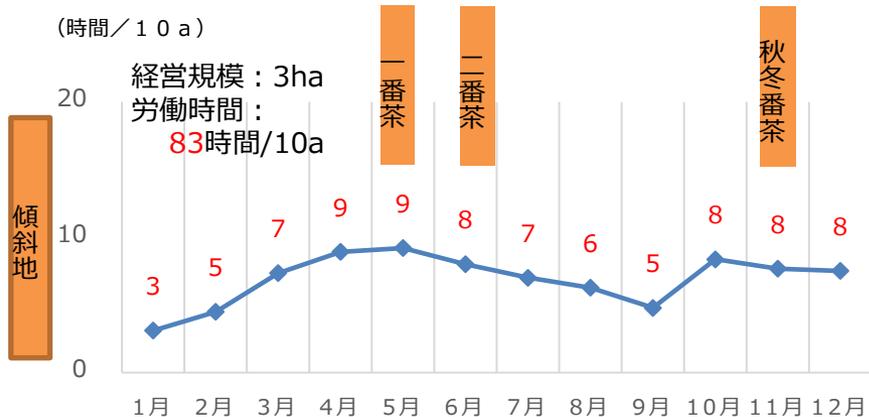
## 【地域計画の策定に向けた取組事例（静岡県袋井市）】

- 袋井市の検討推進体制
  - ・ 令和5年4月、農業委員会の下に「**地区農業推進委員会**」を設置して地域計画・目標地図の議論を開始。
  - 【メンバー】農地利用最適化推進委員、農業委員、部農会長、農業者代表、JA運営委員・土地改良区役員、JA遠州中央、市農政課、県中遠農林事務所など

# I - 3 - 6 茶の労働時間・作業の機械化

- 茶栽培の労働時間は、一番茶・二番茶の茶期を中心に労働時間が長く、冬季に短い**季節的偏在**がある。
- **乗用型摘採機の導入割合は全国で約69%**となっているが、平坦地の多い鹿児島県では約98%に上るのに対し、山間地の**小区画ほ場**や**急傾斜の茶園**が多い京都府では約21%と**生産条件により差異**がみられる。
- ほ場管理作業では、**摘採や被覆、施肥、防除**に係る労働時間割合が大きく**機械化等が進んでいる**が、**被覆**は資材の固定などに技術的な課題が存在するなど、**現状では機械化が困難な作業もあり、1戸当たりの栽培面積の増加のネック**となっている。

【労働時間の季節的偏在】



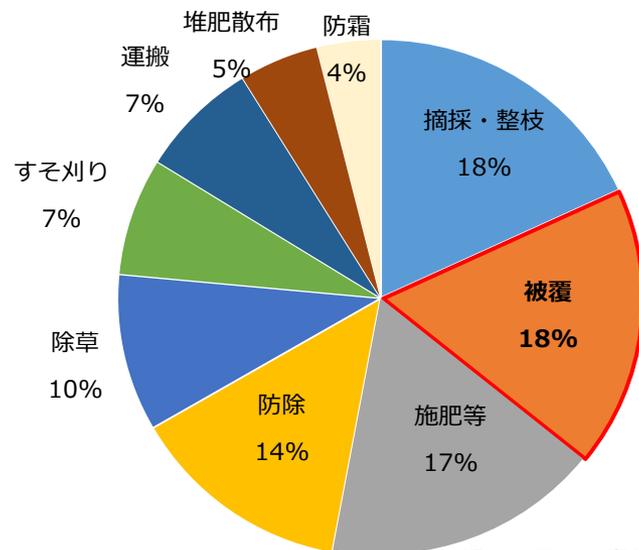
資料：農林水産省聞き取り

【乗用型摘採機の導入状況（令和5年度）】

	導入台数	導入面積(ha)	導入割合(%)
静岡県	3,708	11,124	83.6
鹿児島県	1,350	8,014	<b>98.4</b>
京都府	123	318	<b>20.8</b>
全国計	6,880	24,730	<b>68.7</b>

資料：全国茶生産団体連合会調べ

【ほ場管理作業別労働時間割合】

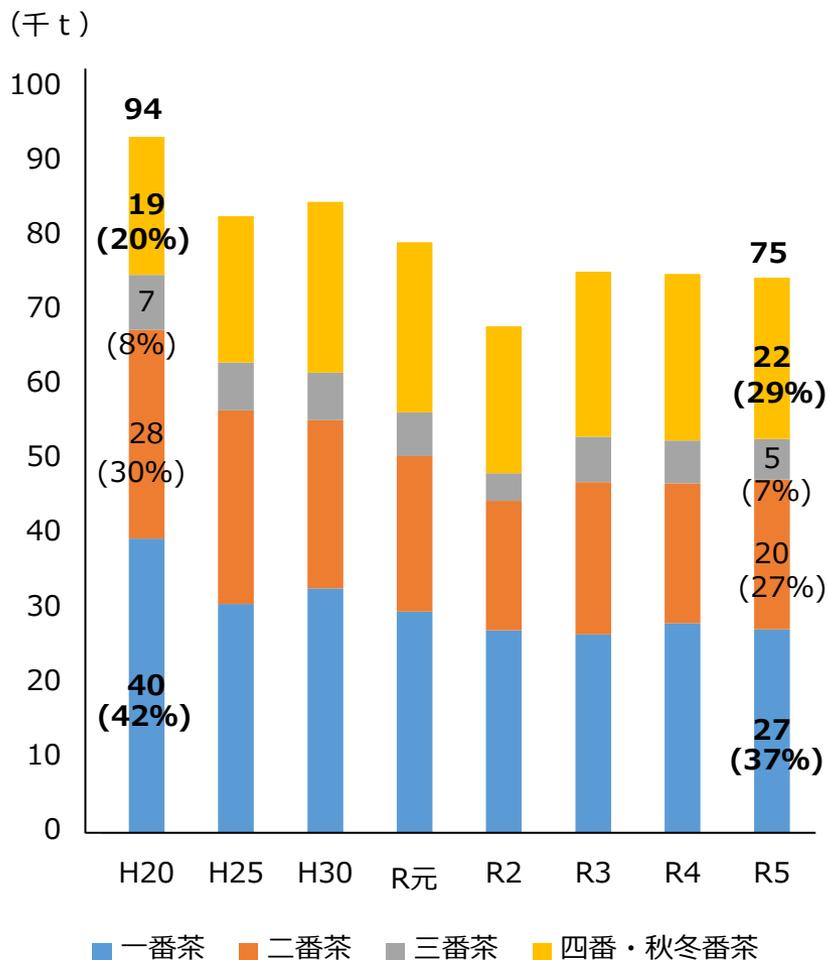


資料：農林水産省聞き取り

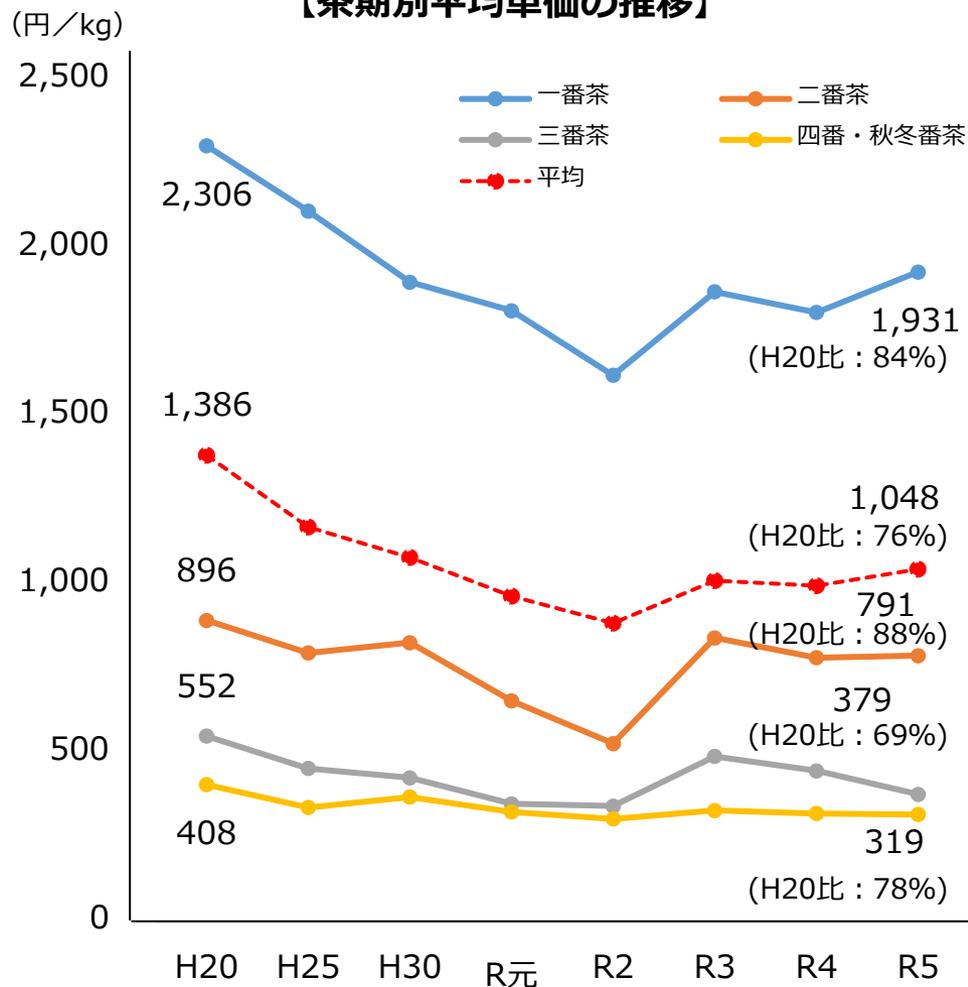
# I - 3 - 7 茶期ごとの生産量・価格の変化

- 茶期ごとの生産量等を比較すると、近年は一番茶から三番茶までの生産量・平均価格ともに低迷している。
- また、ペットボトル等に用いられる四番茶・秋冬番茶の生産量が増加する一方、価格は低下している。

【茶期別生産量の推移】



【茶期別平均単価の推移】



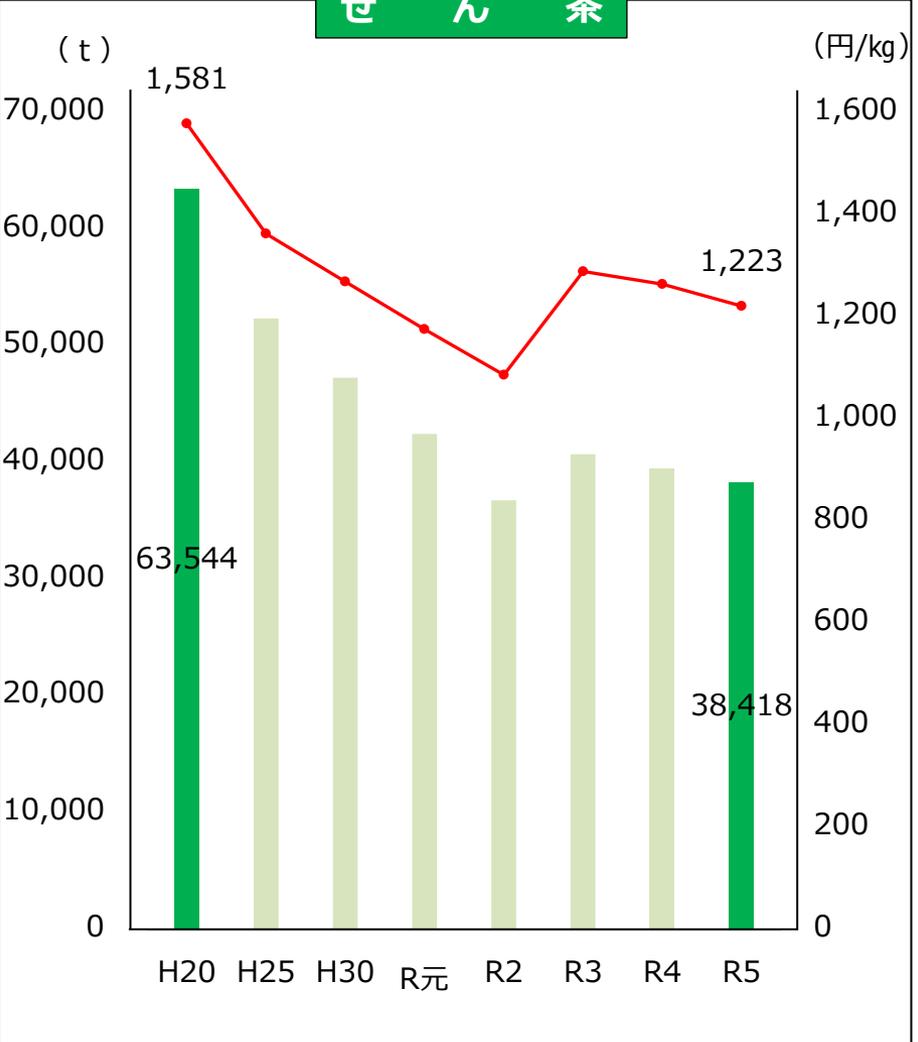
資料：全国茶生産団体連合会調べ

資料：全国茶生産団体連合会調べ

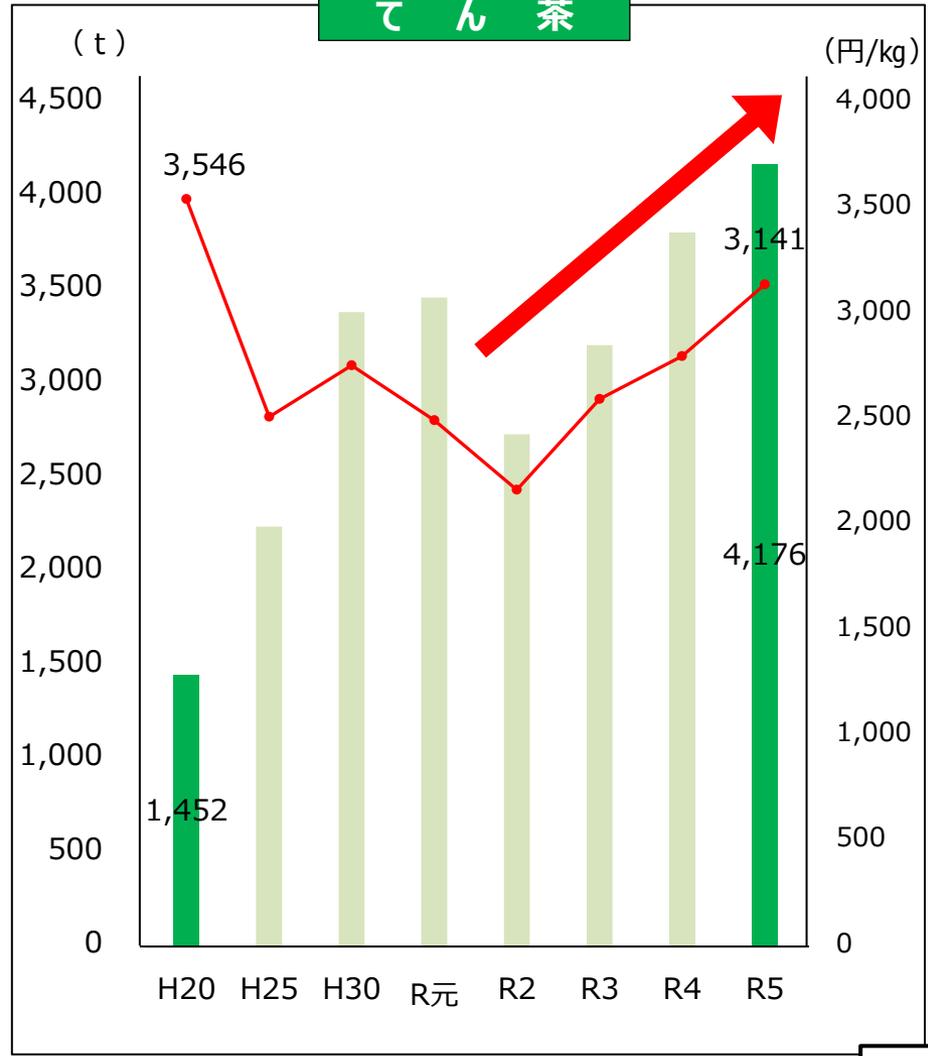
# I - 3 - 8 茶種ごとの生産量・価格の変化

- せん茶の生産量は約3.8万 t（平成20年比60%）、平均単価は1,223円（同77%）と**低迷**。
- 一方、抹茶の原料となるてん茶の生産量は4,176 t（同288%）と**過去最高**となり、平均単価は3,141円（同89%）と**生産量が増加しながらも価格は上昇**。

せん茶



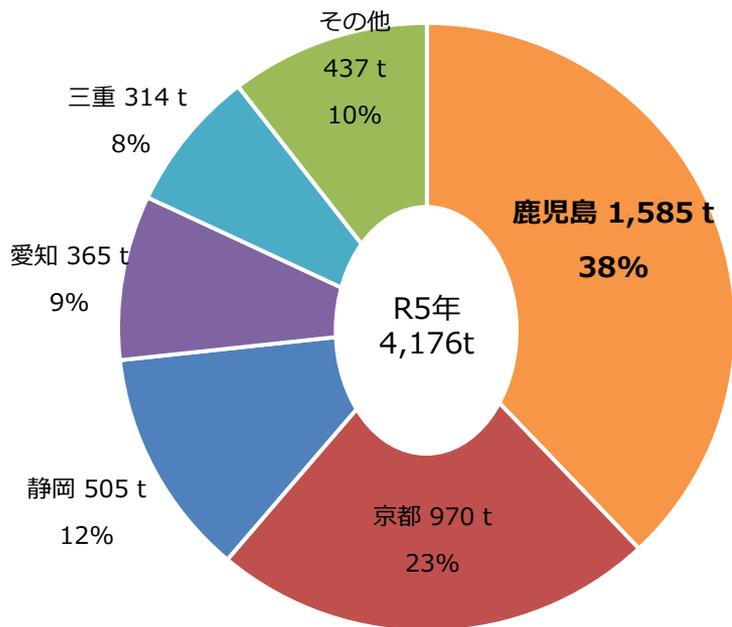
てん茶



# I - 3 - 9 てん茶生産量の増加

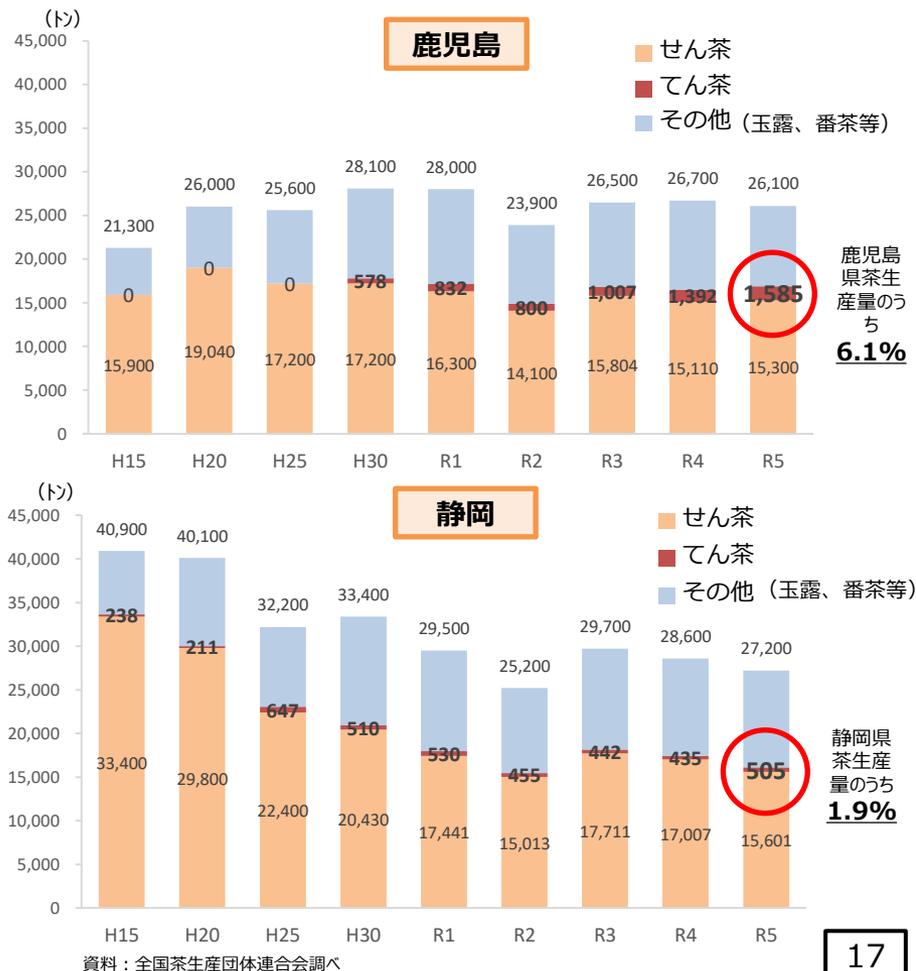
- 令和5年産におけるてん茶の生産上位県は、鹿児島県1,585 t（シェア38%）、京都府970 t（同23%）、静岡県505 t（同12%）となっている。
- 特に鹿児島県では、茶生産量が横ばいで推移する中、せん茶からてん茶への転換が進んでいる。

てん茶生産県（R5年）



資料：全国茶生産団体連合会調べ

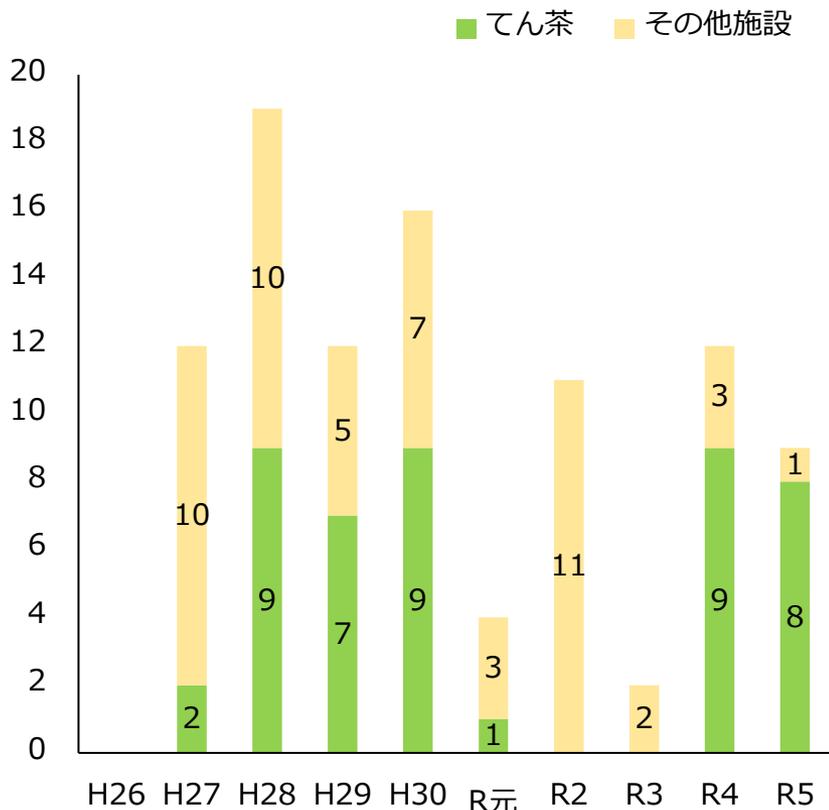
茶種別生産量の推移（静岡・鹿児島）



# I - 3 - 10 茶加工施設の整備状況

- 過去10年間で荒茶加工施設など97施設の導入を支援しており、特に、直近の令和4年度から5年度にかけては約8割がてん茶加工施設となっている。
- 生産者と茶商が連携して加工施設を整備し、実需者の求める品質の茶の安定生産・安定取引を進める事例もみられる。

【荒茶加工施設等の整備状況】



資料：農林水産省調べ  
 強い農業づくり交付金、産地パワーアップ事業  
 農畜産物輸出拡大施設整備事業 等  
 ※予算年度による分類

【抹茶生産の取組事例】（静岡オーガニック抹茶（株））

- ・ 輸出も手がける茶商と地元生産者の共同出資により抹茶加工施設を整備
- ・ 生産者も法人化するなどして地域で団結し、必要な技術を共有しつつ生産拡大
- ・ 有機栽培のてん茶は、品質に応じて茶商が予め示した価格で全量買い取り
- ・ 茶商の海外市場を含むネットワークを通じて需要に関する情報を集め、効率よく相手方が求める品質の抹茶を生産

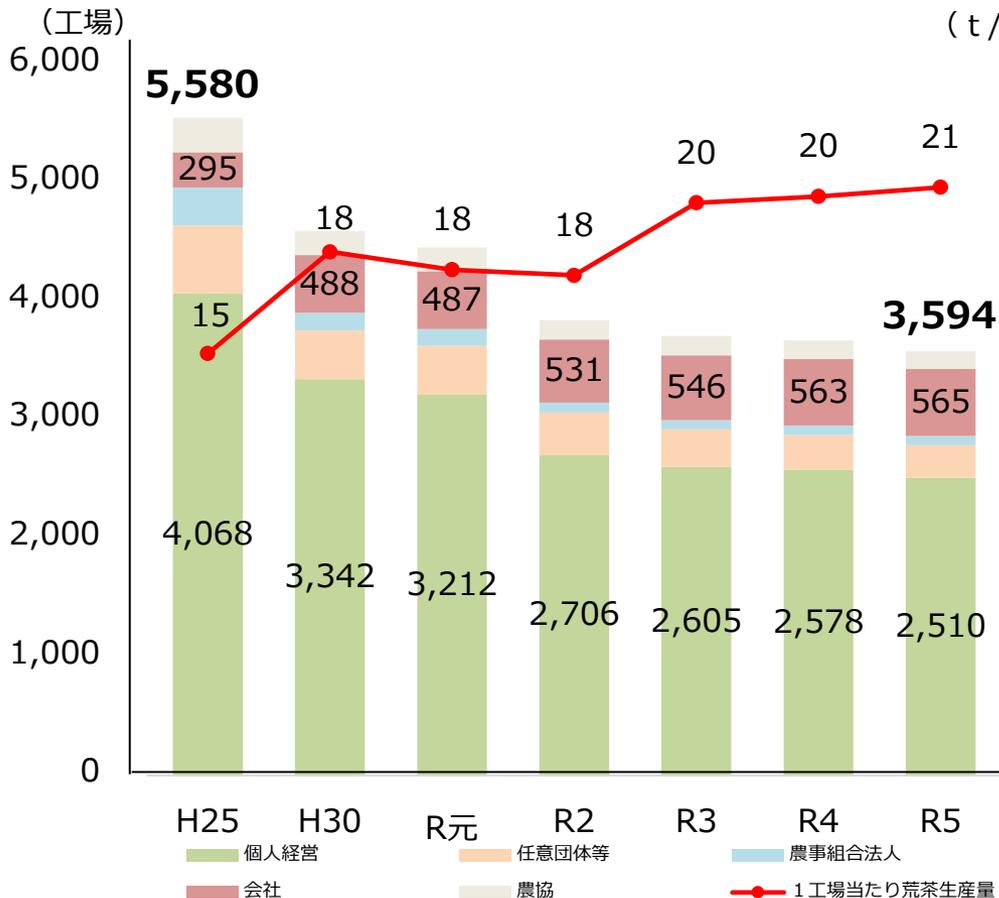


資料：静岡オーガニック抹茶株式会社HPを基に農林水産省作成

# I - 3 - 11 荒茶工場数の推移・省エネ化

- 荒茶工場数は減少傾向にあり平成25年と比較して約4割減少している。
- 個人工場等は減少する一方、会社組織による工場は増加していることなどを背景に、1工場当たりの荒茶生産量は直近10年間で約1.4倍となっている。
- 荒茶工場を含む茶業経営における燃料費は約2割と高いことから、燃料価格高騰の影響を受けにくい経営への転換に向けて、省エネ型茶加工機械の導入等により茶工場の省エネ化を進める必要。

【荒茶工場数の推移】



資料：全国茶生産団体連合会調べ

【農業経営費に占める動力光熱費の割合】

分類	品目	割合
水田作	稲作	8%
果樹作	露地みかん	4%
茶作(加工込)	茶	17%
露地作	露地ピーマン	1%
施設園芸作	ピーマン	28%
	ばら	29%
	温州ミカン	43%

資料：「営農類型別経営統計」(R4)、ピーマンは産地の経営指標

【省エネ型加工機械の例】



高温熱風乾燥機  
(煎茶・てん茶)



ネット型乾燥機  
(煎茶・てん茶)